

新宮木協コミュニケーション誌

No.127 8/1



新宮

木協だより

2011年(平成23年)
(昭和37年12月10日創刊)

発行/新宮木材協同組合 総務委員会
〒647-0025 新宮市あけほの4番64号
TEL. 0735-22-6105(代)
FAX. 0735-22-6107

URL:<http://www.shingumokkyo.com> e-mail:s-mokkyo@shingumokkyo.com

平成23年10月15日 第52回木霊塔建立供養式



今年度木霊塔用の丸太と共に(熊野杉 樹齢百年以上)

献木者: 竹中康策氏・長男 竹中俊介氏

ホームページ随時更新中

新宮木材協同組合

検索

新宮木材協同組合
第六二回通常総会

平成二三年五月二三日、第六二回通常総会を市内の割烹かわりで開催し、提出議案は全て原案の通り承認可決されました。当日は、出席者二九名(委任状を含む)で審議が進められ、特に事業報告、事業計画、持分算定等について活発な意見交換が行われました。新年度の重点事業は次の通りです。

- ① 公共施設への共同販売
- ② 組合資産の有効利用
- ③ 会館トイレ改修工事



総会風景

新宮原木買方組合
第八十回定時総会

原木の新宮地区集荷を助長し、紀南木材業の発展に寄与することを目的に結成された本組合の第八十回定時総会を平成二三年五月十六日(月)に開催しました。組合長 速水 渉氏が議長を執り行い、改善希望事項を憚新宮原木市場に要望書として提出することとし、総会は滞りなく終了致しました。

林業・木材製造業
労働災害防止協会
和歌山県支部新宮分会
第三一回通常総会

林業並びに木材製造業に於ける労働者の安全及び衛生並びに労働災害防止を図ることを目的に昭和五十六年一月に設立した本分会の第三一回通常総会を下記の通り開催しました。当日は新

宮労働基準監督署の山下署長、深町第一課長にご出席を頂き滞りなく総会を終了致しました。

記

日時 平成二三年
七月四日(月)
午前十一時
開催場所 新宮木材会館
出席者 一八名
(委任状含む)

平成二三年度特別重点事項
(ア)リスクアセスメントの普及促進
(イ)林業業ゼロ災運動をはじめ労働災害防止の取組
(ウ)高性能林業機械等の安全対策の周知徹底



巴チツプ協同組合
第十二回通常総会と概況

平成二三年五月十八日第十二回通常総会が開催され提出議案がすべて原案通り可決承認されました。

平成二二年度は日本経済も不況から緩やかな脱出が見えてきたかと思える状況で木材業界におきましても住宅着工が前年の歴史的な低水準の八十万戸割れから何とか八一万戸に回復した状況でした。

このような環境の中、チツプ販売事業も木材業界同様に二二年度集荷実績は前年比四・七%増となりましたが前々年度比では三・〇%減とまだまだの状況でした。販売面で量的には、販売先主力である製紙業界では製品の販売不振が回復基調にあつたもののまだ製品によつて生産調整が残った状態

でしたが出荷制限も殆どなく、また、一方でボード業界との取引も増えて予想以上に順調な一年でした。

価格面では、変動はなく安値ながらも安定した一年でした。二三年度見通しにつきましては、当地域の製材業界は現時点では震災復興の恩恵は薄く逆に震災による影響から住宅着工が落ち込んでおりチツプ発生も六月時点では低調であり、期後半に期待したいものです。

販売先の製紙業界では震災で対象の七県で大小十四工場が被害を受け六月末現在で十二工場は何とか稼動しているものの二工場はまだ稼動していない状況であり、震災に関係のない工場でも薬品、電力不足などの問題もあり現時点では出荷抑制はないものの先行き多少の心配はあります。価格面では現時点の予測としては通期変動はないと思われま

(参考) 田組 正雄

公共建築物

木質材料供給部会

和歌山県木材利用推進協議会に設置している公共建築物木質材料供給部会では、

平成二二年十月一日に施行された『公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律』及び国の『基本方針』並びに和歌山県の『木材の利用に関する方針』に的確に対応するため運営要領の一部を次の通り変更することを検討している。

I 組織

- ①本部会は、公共建築物木質材料供給部会と称する。
- ②部会のもとに、紀北、和歌山、紀中、西牟婁、東牟婁の五ブロックを設ける。
- ③対象品目は、和歌山県内の素材及びこの素材からの製材品ならびに木材加工品とする。
- ④会員資格は、協議会会員で国産材を扱うものとする。

⑤供給部会の部会長は、協議会会長がこれにあたる。

⑥各ブロックに、ブロック長(一名)副ブロック長(一名)を会員の互選により選任する。

II 運営

①供給部会は、和歌山県の建築情報の収集に努める。

②収集した情報は、各ブロックに提供する。

③各ブロックは、区域内の市町村の建築情報の収集に努める。

④収集した建築情報への対応については、原則として各ブロックで対応するものとする。

⑤木質材料の供給は、各ブロックで会員ごとの数量を部会に諮り決定、責任をもってこれを行う。

⑥建築現場における材料検査は、供給を行った会員が責任をもってこれを行う。

⑦毎年、紀州材価格表を発行する。

III その他

①供給部会の事務局は、和歌

山県木材利用促進協議会に置く。

②取引の当事者は会員と発注者であり、供給部会及び各ブロックは取引によって生じた損害について、その責を負わないものとする。

市民運動競技場

クラブハウス外壁工事

二〇一五年に開催される和歌山国体の女子サッカー競技会場に内定している新宮市佐野、市民運動競技場に木造二階建てのクラブハウスが完成しました。この施設の外壁に使用された木材を新緑会を中心に、組合にて共同納入致しました。



第六二回全国植樹祭

平成二三年五月二二日(日) 田辺市の新庄総合公園で第六二回全国植樹祭が天皇、皇后両陛下をお迎えして行われ、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めました。大会テーマ『緑の神話 今そして未来へ紀州木の国から』シンボルマーク「キノピー」

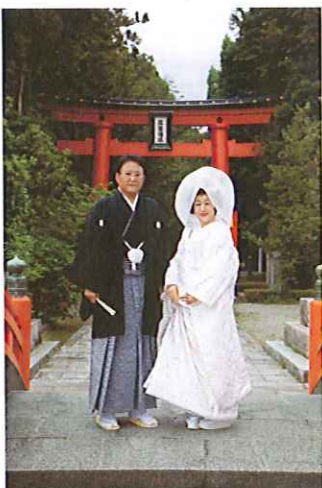


紀の国森づくり大使 キノピー

新婚さん紹介

植松 浩さん (角新木材株)

淳子さん (平成二三年六月十二日挙式)



昭和四四年一月三日生

昭和四九年十月 一日生

ようやく結婚いたしました。今後とも今までと変わらないご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

また、披露宴にご列席いただいた木材業界の皆様、“木遣り音頭”ありがとうございました。

紀元前の技術書から
考える健康住宅の意味
〜ウイトルウィウス
「建築書」から〜

通風と採光を充分にとることが居室の基本要件であることは日本も西欧も同じだ。「健康住宅」とは土地の風土と住人の健康状態に適した居室を持つ住居のことであるが、最近では専ら建材の化学物質によるシックハウス症候群を防止する住宅を指すことが多い。いずれにせよ人の健康を損なうことなく快適な生活環境を提供するという意味で、通風と採光のために自然エネルギーを有効活用するには、間取りと窓の方位が重要になる。

人の健康を第一に考えて住宅の間取りをきめるべきだということは、紀元前の建築書でも強調している。ギリシャ・ローマ時代の「ウイトルウィウス建築書」(ウイトルウィウス著、紀元前三十〜二十年頃/森田慶一訳注、東海大学出版会一九七九年)は十書からなる建築の技術書である。第一書に市街地を造る場合の原則は「第一に最も

健康的な場所の選択」とし、北向きを「寒暑の交代を少しも受けず」好ましい方位としている。第六書には個人の住宅はどう造るべきかが書かれていて、第一章に「住家はまずどの方位に、宇宙のどの傾きに、定められるかが配慮されているならば、正しく配置されているだろう」として正しい方位とは太陽による日射の効果と風向きを適切に判断すべきだと述べる。

空調設備もなかった当時では、太陽方位や風向きをうまく利用した住宅環境を推奨するのは当然だが、ここで注目すべきことは「北向き」が安定した採光を得られる好ましい方位としていることだ。それに対して直射日光による熱は食物や健康に害があるとして窓の向きに注意を促している。

逆に日本の建築、特に住宅で「南向き」の居室が好まれる定説的な考え方、住宅販売のうたい文句は、どこからきたのだろうか。日本の住宅では畳敷きの居室が大部分であったが、自然素材の畳は湿気を嫌うので、南向きに居室を配置して日光で乾燥させ

るのがいいという理由が考えられる。しかし現代では自然素材の畳はあまり使われていないし、フローリングやカーペット敷きの居間でこの理由は当たらない。

信仰面ではどうか。古いところでは、御所をはじめ社寺や民家も南側を正面とする建物が多い。かつての日本では間取りや方位は「家相学」が支配していた。家相学は中国から仏教とともに入ってきた風水思想に基づくもので、「君子南面・臣下北面」という定めがいつの時代か出来たらしい。なるほど、社寺は(西方浄土を唱える浄土宗を除いて)南面が原則となり、家屋内の神棚や仏壇は北側配置の南面はもちろん、民間の住宅居間までが南面を貴ぶという固定観念が出来上がったのだと、推理が働く。

庇(ひさし)や縁側を省略した現代住宅の居間は、採光どころか昼間もカーテンやブラインドを下ろさないと家具や壁が日に焼けて困るし、夏は窓を閉め切って空調をガンガン利かさなければいられないという苦情をよ

く聞く。そのために健康を損なうことがあれば非常に問題であるし、エネルギーを余計に消費しているとすれば時代に逆行する。住宅は自然に逆らわない配置と方位に建てて暮すべきで、技術は自然が損なうものを補うに過ぎないことをウイトルウィウスが強調している。しから

ば季節によって居間の向きを変え、東西南北の窓面を使い分けることが出来れば、これぞ「健康住宅」といえるべきではないだろうか。

(二〇一・六・九 朝日新聞 知的ニッポン第二一号より抜粋)

(紹介者 後岡 邦夫)

―お悔やみ―

浦木グループ代表の浦木清十郎氏が平成二三年六月十九日、逝去され、七月二十〜二二日ホテル浦島にて『お別れの会』が行なわれ、取引業者、関係者等多くの方が浦木さんとの最後の別れを行いました。浦木さんは、紀南地方の大山林家として林業・素材業を営むほか、那智勝浦町のホテル浦島の代表として地域の

雇用、観光、経済等の振興に尽くされた功績は非常に大きく各界から故人の死を惜しむ声が多く聞こえました。浦木さんの山林は熊野優良材の産出地として知られており組合も関係する四月の熊野木まつり記念市には第一回から常に市売の目玉となる良材をご出品頂きました。

新宮木協だより

二〇一一年度新役員

今年度の新緑会の新役員及び会員は次の通りです。

会長	板谷 貴史
副会長	玉置 和夫
〃	瀬古伸一郎
会計	竹中 俊介
書記	江崎 大晃
監査	湊 一郎
〃	青木 優朋
木工展委員長	速水 祥久
木工展会計	久保太嘉志
木工教室	速水 洋平
〃	瀧岡 俊太
出張木工教室	瀬古伸一郎
〃	速水 洋平
〃	川崎 康弘
企画委員	野地 伸卓
〃	濱口 輝久
相談役	谷畑 光彦

会員名簿

正会員 十五名

氏名	勤務先
谷畑 光彦	紀和製材(株)
瀧岡 俊太	(有)瀧岡木材
川崎 康弘	(資)川崎商店
速水 祥久	速民製材
江崎 大晃	江崎製材
玉置 和夫	熊野川町森林組合
板谷 貴史	板美商店
瀬古伸一郎	(株)山一本店
湊 一郎	角新木材(株)
久保太嘉志	(有)池田製材所
竹中 俊介	竹中幸生商店
濱口 輝久	晃栄林業(株)
速水 洋平	(株)新宮木材センター
青木 優朋	青木木材(資)
野地 伸卓	野地木材工業(株)

(賛助会員は十五名です)

日本木材青壮年

団体連合会

第五六回全国会員大会

埼玉大会 〓 静岡

今回の全国大会は三月十一日の東日本大震災の影響から急遽埼玉から静岡に変更となりました。

平成二三年六月四日(土)、大会に出席するため深夜から、自動車にて現地に移動し、会場であるホテルアソシア静岡に到着、「東日本大震災復興決起大会」と銘打ち、開催される中で私たちは津波被害と木造住宅等の会議に出席しました。今回は、急な変更であった為、パンフレットや懇親会等も縮小が見られました。来年度へ向けての体制は東北メンバーへの支援はもちろんのこと、全国大会に向けて「例年の二倍・三倍の明るさと元気さ」で日々の活動に精進しようという熱気に包まれておりました。

(板谷 貴史)

木工教室

夏休み恒例の親子木工教室を今年も七月二四日(日)に行い、当日朝早くから会員の皆さんと準備しました。今回は「マガジンラック」と「スライド式本立て」の二点で、開始時間の午前九前を前にして行列が出来、百名以上の参加で余りの参加者の多さに二階だけに止まらず、一階にも参加者が溢れるほどで、キッドもほぼ配布し終わるほどで、前年と変わらず両キッドとも好評でした。予定時間より早く、無事終了することができ、本当によかったです。会員の皆様、お疲れ様でした。又毎年、リン木を貸して頂いております稲垣製材様にも重ねて御礼申し上げます。

(速水 洋平)



大勢の参加者で賑わいました



スライド式本立て(写真左)とマガジンラック(写真右)

震災特集

吉村昭さんの証言
「三陸沖大津波」
「関東大震災」について

◇出版・文春文庫
◇著者・吉村昭

◆三陸沖大津波(明治・昭和に起きた三回の津波の記述)

①明治二十九年(一八九六)六月十五日、午後八時二分発生(夜です)。死者二六三六〇名、流失家屋九八七九戸、当時世界で二番目、日本最大の津波といわれた。…海水は壮大な規模で乱れはじめ、海岸線から徐々に干(ひ)きはじめ、やがてその速度は急激に増していた。湾内の岩はたちまち海水の中からぞくぞくと頭をもたげ、海底は白々と露出した。或る湾では一〇〇メートル以上もある湾口まで海水がひいて干潟と化した。干いた海水は、潮の沖合いで異常にふくれ上がると、満を持したように壮大な水の壁となって海岸方向に動き出した。「ドーン」「ドーン」という大音響と

もに…」このような津波来襲時の克明な記録と津波が収まった後の阿鼻叫喚(あびきょうかん)(甚だしい、形容し難い惨状)の巷と化した現場の挿図が掲載されている。

②昭和八年(一九三三)三月三日午前二時三二分来襲、死者一九九五名、流失家屋四八八五戸、積雪が大地を覆う厳寒の真夜中に来襲したため凍死する人多数あり。

③昭和三五年(一九六〇)五月二四日・午前三時頃。死者一〇五名、流失家屋一四七四戸。チリ地震津波。地震のない(チリ地震より三日後に襲われる)津波がのっこのことやってきた。※子供の眼・②③で被災した子供達が当時の状況をたどたどしくもこくめいに述べた作文が多数あります。限りなく胸が込み上げてきます。

※度重なる津波によって壊滅的な打撃を受けた津波太郎の異名をもつ宮城県田老地区は昭和八年の津波の翌年から海岸線に防波堤の建設をはじめ昭和三三年には要塞のような防壁(「田老万里の長城」と呼ばれた)が出現。幸いチリ津波の時は死者もなく家屋の被害もなかったのである…、が、今回の大津波に

よって一三四メートルの堤防がズタズタに寸断されたという。どれ程堅牢な防波堤でもひとたび想定外が起ると脆くも崩壊する。ハード面の安全さは費用対効果も含めどこまで限界効率を追求してゆけるのであろうか。

◆関東大震災(大正十二年九月一日午前十一時三十分大激震が関東地方を襲う。)大火災は東京・横浜を包囲し約二十万の命を奪う。天災は人心の混乱を呼び、多くの流言蜚(ひ)語が飛び交い社会事件を誘発する。…そうした震災の社会事象を経(たて)糸に、当時わが国の地震学の最高権威者二人大森房吉・今村明恒両氏の地震予知に関する(規模、時期、場所、状況の想定等)威信をかけた大論争(その結果と社会的影響、そしてその後の二人の行動軌跡については紙面の関係上、本文をご参照下さい)を緯(よこ)糸にした記録小説です。

「記録すること」に徹している。だから情緒的な解釈もしいない。圧倒的な事実の背後から、それこそ津波のように立ち上ってくるのは、読む側にさまざまなことを考えさせ、想像させる喚起力である。」(高山文彦氏)

○関東大震災後の復興は山本権兵衛内閣の内務大臣後藤新平が中心となって始められた。後藤の動きは大変早く、震災の翌日には復興計画を提出している。彼の偉大な点を二つ程とりあげてみると、一つには人材登用に優れていることである。彼に登用された技術官僚などと共に、ウオーターフロントの開発や学校の不燃化、隅田川に橋をかけ、昭和通りをつくった。等々今の東京の経済的基盤を再構築し、現在でもその成果が残っているという。二つめは復興の主体を一つに絞ったところだという。迅速に中心の柱を立て人材を集める。彼は各省ばらばらでは指揮系統が複雑になってしまいうからだめだとわかっていったという。翻って三・一一以降の政府の危機管理はどうか。船頭多くして船山にのぼるのではないかといわれている。※ジュリアーニさんも同じことをいっています。指揮命令系統を一つにしなさい。

「指揮で大事なものはワン・ボイス(命令を出す人を一人に絞ること)だ。一人が無理ならワンセントラルボイスにしなさい。そのかわり、先行きの方向性を示し、情報をすべて公開しなさい。」と。四月二七日付日経「大震災・日本を立て直す」より。

※ルドルフ・ジュリアーニ 二〇〇一年米同時テロ九・一一時のニューヨーク市長。危機管理が非常に評価された。

関東大震災と今回の震災でもっとも異なっているのは「政府に後藤新平(一八五七〜一九二九岩手県水沢市出身)がいないこと」だと多くの識者が指摘する由縁です。

○三・一一(津波・震災・被曝)被災者(当事者)と免れた人(非当事者)との間にある越えがたい深淵。そこに懸ける言葉もちえるのか。―すべての言葉は枯れ葉一枚の意味も持たないかのようにであった。アウシュビッツを訪ねた開高健の「うめき」が脳裏をよぎっていった。

「(三・一一を)ただの悲劇や感動話や健気(けなげ)な物語に貶めてはいけなない―たぶん私達も、言葉が枯れ葉一枚の意味も持たない。壊滅状態から、ともに歩み出すしかないのだ。深淵を

飛び越えたつもりの饒舌(じょうぜつ)は言葉の瓦礫(がれき)にすぎないとあらためて思う。

・女川の町は文字通り無くなっていた。女性がひとり、這(は)って形見を探していた。「泣いても泣いても泣けてきて」。国をあげての長い試練となる。懸ける言葉を絞(しぼ)り出したい。四月三日付・朝日天声人語より

○言葉の力について(一)

・芸術は生活の過剰(かじょう)だそうである。しかし人間を人間たらしめるのは常に生活の過剰である。僕等は人間たる尊厳(そんげん)の為に生活の過剰をつくらねばならぬ。過剰を大いなる花束(はなむく)に仕上げねばならぬ。関東大震災の直後に文筆家の矜持(きんぢ)「きょうじ」をこう記したのは芥川龍之介(かいせんりゆうしゅう)であった。

・避難所で本(ほん)を手にする子供の姿(すがた)を見れば誰(たれ)しもほっとする。「人間を人間たらしめる」営(い)みは、震災で壊(こわ)れた世界(せかい)を少しづつ修復(しゆふ)して行くことだろう。(しかしあまりにも無残(むざん)な惨状(さんじょう)に「言葉の力」に無力感(むりきく)を訴(こ)えた作家(さ)達(たち)もいます。)

・我々(われわれ)芸家(げんか)にとつて第一(だいいち)の打撃(うちげき)は、文藝(ぶんげい)ということが生死存亡(せいじぞんぼう)の境(きょう)に於(お)ては、無用(むよう)の贅沢(ぜいたく)の境(きょう)に於(お)ては、無用(むよう)の贅沢(ぜいたく)

(ぜいたく)品(ひん)であることをまざまざと知(し)ったことである。

菊地 寛

・数分(すうぶん)間の大地(だいち)の震動(しんどう)に比(ひ)すると月評家(げつひやうか)の筆(ひ)などは何(なに)の力(ちから)も無いのである。

正宗白鳥

むべなる哉(いかでか)(成程)

四月七日毎日新聞「余(あ)禄(ろく)」より

○言葉の力について(二)

(心(こころ)したい事)

・いつも安全地帯(あんぜんぢたい)にいながら「これは天罰(てんばつ)、津波(つなみ)で日本人(にっぽんじん)の我欲(がよく)を洗い落(お)す必要がある」と宣(のたま)わ(たま)った憂国(ゆうこく)の志士(し)気取(き)りのウスツペラな饒舌(じょうぜつ)の政治家(せいじか)。

安全確認(あんぜんかくにん)のダイヤル(ダイヤル)一七(いちぢ)を「イナイと覚え(おぼ)えましょう」と語(かた)呂合(ろが)せを優先(ゆうけん)したTV局(ていゑい)局(きょく)。日本人(にっぽんじん)の言語感(げんご)覚(かく)はいつ(いつ)からこんな(こんな)に下劣(げあつ)にな(な)ったのか。彼等(かれら)には災害(さいがい)の恐怖(こふ)を煽(あお)るか、恐怖(こふ)に怯(おそ)える精神(せいしん)しか(しか)ない。「天災(てんさい)は忘(わ)れ(わ)た頃(ころ)にや(や)つてくる」という有名(ゆうめい)な警句(けいご)で知(し)られる寺田(てら)寅彦(とらひこ)が危(あや)しがる「ことでも怖(こわ)がらない」ことでもなく「正統(せいとう)に怖(こわ)がる精神(せいしん)だ」と述べた言葉(ことば)の意味(いみ)がわ(わ)か(わ)っていない。

「民族学(みんぞくがく)者(しや)、宮本(みやもと)常一(じょういち)を世(よ)に知(し)らしめた作家(さ)家(か)・佐野(さの)真一(まこと)氏(し)」

・殊(こと)に新宮(しんみや)に身(み)を置(お)く者(もの)として被災(ひさい)した名取市(なとり)閑上(かみ)上(じやう)(ゆりあげ)地区(ちく)の幼稚園(ちようい)児(こ)児(こ)、小学生(しょうがくせい)、中学生(ちゅうがくせい)、高校生(こうがくせい)達の肉親(にくしん)や友(とも)友(とも)への作文(ぶん)に括目(くわくもく)し、耳(みみ)を傾(かた)めよう。そして手(て)を合(あ)せ祈(いの)りま(ま)しよう。

○復活・復興(ふくしゅう)に向けて

今回の危機(きき)的(てき)状況(じょうきょう)に瀕(ひん) (ひん)しても、日本人(にっぽんじん)は見事(みごと)な行動(こうどう)を示(し)しました。抑制(いよく)が利(き)き互(た)いに励(こ)まし合(あ)いパニック(ぱにっく)に陥(お)ち(お)ち)ず(ず)略(りやく)奪(だつ)や暴動(ぼうどう)とい(い)った事(こと)件(けん)は起(お)き(お)き)な(な)か(か)つ(つ)た。復活(ふくたつ)、復興(ふくしゅう)に必(かなら)ず(ず)な(な)の(の)は、弱肉強食(じやくじゆうきやうじき)とか自由競争(じゆりゆうきさう)とい(い)つ(つ)た資本(しやほん)の論理(ろんり)では(では)なく(なく)市民(しみん)同(どう)士(し)の共助(きよすけ)(ともだすけ)による(による)贈与(くわい)によ(よ)つ(つ)て成(な)り立(た)つ(た)共同(きゆうどう)体(たい)である(である)。

そしてその事(こと)は国民(こくみん)全(ぜん)て一人(ひとり)一人(ひとり)が連帯(れんたい)の力(ちから)を信(しん)じるとい(い)うこ(こ)と(と)な(な)る(る)ので(ので)し(し)ょう(しょう)。(ワン・フォア・オール。オール・フォア・ワン)

しかし現実(げんじつ)は、国内(こく内)外(がい)の連帯(れんたい)に依(よ)つ(つ)て集(あ)め(め)ら(ら)れた義援金(ぎえんぎん)、義援(ぎえん)物資(ぶつし)をもとにした贈与(くわい)と経済(けいざい)がス(ス)ムーズ(スムーズ)に稼(と)き(と)き)動(どう)して(して)い(い)ない(ない)とい(い)う報(は)道(だう)が(が)あ(あ)り(り)ま(ま)す(す)。被災(ひさい)者(しや)に、あ(あ)る(る)いは復(ふ)興(きよう)に携(た)わ(わ)る(る)人(ひと)達(たち)に(に)う(う)ま(ま)く行(い)き(き)わ(わ)た(た)つ(つ)て(て)い(い)ない(ない)とい(い)うこ(こ)と(と)で(で)す(す)。殊(こと)に日(にっ)常(じょう)生(せい)活(かく)に繋(つな)がる(がる)経済(けいざい)活(か)性(せい)化(か)は(は)その政(せい)策(さく)実(じつ)行(こう)の速(すみ)さ(さ)、一(いち)日(にっ)一(いつ)日(にっ)が勝(か)つ(つ)た(た)とい(い)わ(わ)れ(れ)ま(ま)す(す)。上(かみ)に立(た)つ(つ)つ(つ)者(しや)、特(とく)に為(な)政(せい)者(しや)

はこの国難(こくなん)に充(み)つ(つ)つ(つ)て政策(せいさく)のブレ(ブレ)や想定外(さうていがい)を盾(たもと)にする余(あ)裕(よ)は(は)あ(あ)り(り)ま(ま)せん(せん)。政治家(せいじか)家(か)、そ(そ)して(して)彼(かれ)等(ら)を(を)

簡単な言葉

◇震度ーマグニチュード(M)の違い

マグニチュードは、地震(じしん)が持(も)つ(つ)エネルギー(えんじゆーぎー)の大き(お)き(き)さ(さ)(規模(きぼ))の(の)こ(こ)と(と)。震度(しんどう)は(は)そ(そ)れ(れ)ぞ(ぞ)れ(れ)の場(ば)所(じよ)で感(かん)じ(じ)る揺(ゆ)れ(れ)の大き(お)き(き)さ(さ)のこ(こ)と(と)。マグニチュード(マグニチュード)が(が)大(お)き(き)く(く)ても震源(しんげん)(断層(だんそう)が(が)ず(ず)れて揺(ゆ)れ(れ)が(が)発(はっ)生(せい)した場(ば)所(じよ))から離(はな)れて(て)い(い)れば(ば)、震度(しんどう)は(は)小(こ)さい(さい)。同(どう)じ(じ)(M)でも震源(しんげん)が(が)深(ふか)ければ震度(しんどう)は(は)小(こ)さ(さ)く(く)なる(なる)。

震度(しんどう)は(は)人(ひと)が感(かん)じ(じ)る揺(ゆ)れ(れ)や建(た)物(ぶつ)の被害(ひがい)など(など)を目(め)安(やす)に、十(じゅう)段(だん)階(かい)に分(わ)け(け)ら(ら)れ(れ)て(て)い(い)る(る)。

※津波(つなみ)とい(い)う言葉(ことば)は(は)新造(しんぞう)語(ご)であ(あ)る(る)。津(つ)とは(は)港(みなと)のこ(こ)と(と)で(で)、港(みなと)を襲(おそ)う高波(たかなみ)の意(い)。沖(おき)合(あ)い(い)では津波(つなみ)の被害(ひがい)を受(う)ける事(こと)なく津波(つなみ)は港(みなと)陸地(りくぢ)を(を)お(お)そ(そ)う(う)もの(もの)(Dev)とい(い)う(う)。

選(えん)んだ私(わが)達(たち)、共(とも)に今(いま)改(か)めて(めて)世界(せかい)から日本人(にっぽんじん)の覚悟(かくご)と器量(きりやう)が問(と)わ(わ)れ(れ)て(て)い(い)る(る)よ(よ)う(う)に思(おも)い(い)ま(ま)す(す)。

◇今回の地震(じしん)の名称(な)は(は)東(とう)北(ほく)地方(ちほう)太平洋(たいやうやう)沖(おき)地震(じしん)とい(い)う(う)。この地震(じしん)が(が)も(も)たら(ら)した災(さい)害(がい)は(は)東(とう)日本(にっぽん)大震(だいしん)災(さい)と呼(よ)ぶ(ぶ)。

◇静岡(しずま)県(けん)の直下(ちか)で起(お)きる「東海(とうかい)地震(じしん)」と四国(しこく)沖(おき)で起(お)きる「南海(なんかい)地震(じしん)」。その間(ま)で起(お)きる「東南海(とうなんかい)地震(じしん)」は(は)こ(こ)れ(れ)ま(ま)で(で)もくり返(かへ)し(し)起(お)きて(て)い(い)て、こ(こ)れ(れ)ら(ら)は(は)、今(いま)後(ご)も起(お)きる可能性(かんとせいのう)が(が)高(たか)く、同(どう)時(じ)に発(はっ)生(せい)する可能性(かんとせいのう)も(も)あ(あ)る(る)ので対(たい)策(さく)が(が)必(かなら)ず(ず)要(い)です(す)。

◇祈(いの)り・神(かみ)と仏(ぶつ)のち(ち)が(が)い(い)

神(かみ)は(は)在(あ)る(る)もの(もの)。仏(ぶつ)は(は)成(な)る(る)もの(もの)。(宗(しゆ)教(きやう)学(がく)者(しや)・鎌(か)田(た)東(とう)二(に)氏(し))「仏(ぶつ)も昔(むかし)は(は)人(ひと)な(な)り(り)き(き) 我(われ)ら(ら)も終(は)つ(つ)には(は)仏(ぶつ)なり ※三(さん)身(み)仏(ぶつ)性(じやう)(さんしんぶつ)し(し)ょう)具(ぐ)せ(せ)る(る)身(み)を(を) 知(し)ら(ら)ざ(ざ)り(り)ける(ける)こそ あ(あ)は(は)れ(れ)な(な)れ(れ)」 梁(りやう)塵(ちん)秘(ひ)抄(しやう)(りやうじんひしやう) ※三(さん)身(み)(さんしん)と(と)も(も)。三(さん)種(しゆ)の(の)仏(ぶつ)身(み)。

「本の紹介」

愚者の死

千九百十一年一月二十三日
大石誠之助は殺されたり。

げに厳肅なる多数者の規約
を裏切る者は殺さるべきか
な。

死を賭して遊戯を思ひ
民族の歴史を知らず。
日本人ならざる者
愚なる者は殺されたり。

『偽(うそ)より出でし真実
(まこと)なり』と
紋首台上の一語その愚を極
む。

われの郷里は紀州新宮。
渠(かれ)の郷里もわれの町
聞く、渠が郷里にして、わが郷

里なる紀州新宮の町は※1恐懼
(きょうく)せりと。
うべさかしかる商人(あきう
ど)の町は欺かん。

―町民は慎(つつし)めよ
教師らは国の歴史を更にま
た説けよ。

・佐藤春夫 著 殉情詩集
我が一九二二年より(明治四
四年三月「スバル」所収)

○新宮出身の春夫は当時ま
だ十八歳。彼は父と同業で西
村伊作の肉親で知人の誠之
助を愚者」と規定し、「殺さ
れたり」と力強く繰り返す中
で、強権に対する憤りを当局
に対して面と向って異議を
唱えることの出来ない時代
背景の中に於て、十八歳の早
熟な熱情で精一杯の抵抗を
する。「死んだのではない。
国家に対して殺されたのだ
だ」と。したがって一言一
句に反語性を一貫させるこ
とで、「大逆事件」での衝撃
を受け止めようとしている
かのようにみえます。…こ
の項佐藤春夫記念館長辻本
雄一氏の見解。(熊野誌)よ

※処刑された大石の葬儀は
世間の目をしのぶようにま
だ寝しずまっていたる早朝ひ
そかに営まれたという。が、
遺族達のその後は悲惨であ
った。逆徒の家族と罵倒され、
遺児たちは学校にも行けず
泣き暮した。それが大石が愛
した町びとの表情であった
という。…われの郷里は
紀州新宮。渠の郷里もわれの
町：うべさかしかる商人
(あきうど)の町は欺かん―

町民は慎(つつし)めよ教師
らは国の歴史を更にまた説
けよ：。(佐藤さんの思い
の文は如何ばかりか)
国家と共に新宮の六人を指
弾した地元の当時の人々、そ
して子孫の現代に生きる
我々にも又人間として他の
人に対するやさしさとか思
いやりを問われているよう
に思われます。(敢えて付言
を許されるのなら)我が(家
族も含めて)さえよければえ
んやという我執、そして妄
執の極まった※2望蜀(ぼう
しよく)(暴食?)の民をめ
ざすなかれ。ということなの
でしょう。大石さんは、今
なお※二河白道の細い白い
道を西方に向っているのだ

あろうか。
※1恐懼(きょうく)：…恐
れかしくまること。謹慎する
こと。
※2望蜀：「人苦不知足
既平隴復望蜀」(すでに隴(ろ
う)という国を平定している
のにその上にまた蜀という
国を求めている。足るを知ら
ず人民は苦しむ)ということ。
↑↓知足安分

辞世の句です。
・何もの ※大いなる手か
つかみけん 五尺のをのこ
みじろぎもせず

・わがむくろ 煙となりて
はてしなき かの大空に
通ひゆくかな 誠之助
合掌

※大いなる手：官憲か、神
か、いろいろな説有り

※二河白道(にがびやくど
う)
仏の比喩的表現、恐ろしい火
の河・水の河に挟まれて幅の
せまい一条の白い道がある。
火の河は衆生の瞋恚(しん
い)「自分の心に逆う者をう
らむ事」。水の河は衆生の貧
愛(とんあい)「むさぼり執
着する事」白道は浄土往生を
願う清浄の信心で、いかに火
水におびやかされても白道
を進めば西方浄土に至りう
ることを説いたもの。

○「許されざる者」の作者
辻原登さんは大石を日本の
チェーホフだといっています。

※新宮市春日の小公園には
「志を継ぐ」という大逆事件
の犠牲者を顕彰する碑が立
てられています。
(総務委員 瀬古 穰)

並材相場表

樹種	長さ(m)	径級(cm)	単価(m ³ 当り)	備考
杉	3	14	10,000	
		16	10,000	
		18~22	10,000 ~12,000	
	4	14	10,000	
		16	10,000	
		18~22	10,000	
檜	3	14	7,000 ~10,000	虫多少
		16	10,000 ~13,000	
		18~20	12,000 ~15,000	
	4	14	8,000 ~10,000	直曲込
		16	10,000 ~15,000	直曲込
		18~22	12,000 ~15,000	

樹種	形状	平成23年			備考	
		5月	6月	7月	長さ(m)	径(cm)
杉	4m 小丸木材	4,500 (4,500)	4,400 (4,700)	4,500 (5,300)	4	6~12
	3m 柱材	8,900 (9,400)	8,800 (8,800)	9,000 (8,600)	3	14~16
	4m 中目材	10,400 (10,700)	10,300 (10,200)	11,000 (10,600)	4	14~28
	30cm 上材	14,900 (17,700)	13,400 (12,900)	13,800 (16,200)	3~5	30~
檜	4m 小丸木材	5,300 (5,800)	4,800 (5,600)	4,700 (7,100)	4	6~12
	3m 柱材	9,400 (11,000)	10,900 (11,400)	10,300 (12,800)	3	14~16
	4m 中目材	13,500 (16,300)	13,000 (14,600)	15,400 (17,000)	4	14~28
	30cm 上材	24,400 (30,300)	19,800 (29,400)	32,400 (48,100)	3~5	30~
杉総平均単価		11,200 (12,200)	10,900 (10,000)	10,500 (11,100)		
檜総平均単価		12,200 (15,700)	13,300 (14,200)	15,700 (16,500)		
総平均単価		11,500 (13,000)	11,600 (11,100)	12,700 (12,700)		

◆◆◆原木市場平均単価◆◆◆

m³単価 () は平成22年度

(平成23年7月20日現在)

※ ご入用の原木がございましたならば、早速に準備させていただきます。


(榊新宮原木市場)

事務局
休みのおしらせ
八月十三日(土)
~八月十八日(木)

◆ 第三四回
児童生徒木工工作
コンクール
九月二四日(土)~
二五日(日)

◆ 盛夏特別記念市
八月四日(木)

豊富な優良材を取り揃え、お待ちしております。
(出品量 約一五〇〇m³)



行事予定

末社詣り

組合恒例の末社詣り行事を旧暦の元旦にあたる2月3日(木)に行ないました。晴天の下、参加した人は神社にて頭をたれ業界の隆昌と安泰を祈願いたしました。各神社を参拝後はかわみにて伝統の「どじょう汁」に舌つづみをうち、山中氏による水野のお殿様のお話等、正月らしい賑わいで旧元日をお祝い致しました。

(速玉大社—牛ノ鼻神社—中村神社—烏止野神社—阿須賀神社—神倉神社(遥拝)—王子神社(遥拝))



編集後記

◇なでしこジャパン初優勝おめでとうございます。第六回サッカー女子ワールドカップ(W杯)ドイツ大会で日本女子代表(なでしこジャパン)が初優勝を成し遂げました。この優勝で大きな感動と希望と勇気をもたらした人は多かったです。特に東日本大震災で被災された方の胸には響いたことと思います。皆の気持ちの一つとなった結果であり、この力を借りて震災復興にとりくまなければなりません。こうした時にこそ超法規的な手段や手法を素早くまとめて実行できる強力なリーダーが求められています。

◇震災・大逆事件、ともに非常に重いテーマを取り上げました。三・一一以前と全く意図する趣きが異なっていました。しかし、

今年、当市に住む私共にとって重要な課題だと思えます。御意見を拝聴したく存じます。

◇新宮市内では文教施設を中心に公共施設の建設が進められています。積極的に木材が利用されており、組合でも木材PR、キャラバン活動、営業活動、納入取まとめ等積極的に取り組んでいます。

◇全国植樹祭は和歌山県では昭和五二年に那智高原での開催以来三四年ぶりとなりました。当時新宮では“人と木の対話”をテーマに『熊野木まつり』を行ない熊野材の真価を問う優秀性を世に広めました。

熊野木まつりは現在も続けています。

◇竹中さん、献木に感謝
親子・一本の木

信頼と愛情